

気象界消息

1. 海洋放射能関係の業務視察

海洋放射能の諸研究所を視察し、研究開発状況を調査するために、気象研究所地球化学研究部、猿橋勝子研究官は6月中旬から7月初旬まで、アメリカおよびカナダへ出張した。

2. 長期予報に関するシンポジウム

アメリカ・ボールドーで、長期予報に関するシンポジウムが6月29日から開催され、気象研究所の予報研究部、高橋浩一郎部長と村上多喜雄第三研究室長が日本から出席のため渡米した。

3. WMO から Dr. Taba 来日

イランの気象学者で WMO の Training Section の Chief Dr. H. Taba が7月6日来日した。気象庁、大学校等を視察し、7月10日離日した。

4. 西パキスタンに嵐

6月18日、西パキスタン・ハイドラバド地区に強風雨を伴う嵐が襲い、332名にものぼる死者を出し、家畜の被害も60,000頭にのぼると伝えられる。

5. アメリカ中西部のトルネード

アメリカ中西部にトルネード、雷雨を伴う嵐がおそい、モンタナ州でミズーリ河が氾濫し、ネブランク州で死者2をだしたと報じられている。この嵐に伴う両日6月22日、セント・ジョセフで145ミリに達したという。

6. 北海道に地震

6月23日、北海道根室附近に地震があった。震央は千島の南、大太平洋の海底60kmと推定され、落石附近で鉄道に被害があり、一時不通となった。

7. 九州中国地方に豪雨

6月25日、九州の各地に豪雨があり、がけくずれ、洪水等の被害があった。さらに6月27日には本州西部にも豪雨域が広がり、各地の雨は100ミリから200ミリに達し、各地に豪雨による被害があった。この雨は活潑な梅雨前線のいたずらで、関東地方にも蒸暑い雨の日がやってきて、静岡県でも小さな川が氾濫、東海道線が不通になった。

8. 雷電、モスコウ・ワシントン間の通信線を破壊

6月30日、フィンランドを通っている、ホワイトハウス・クレムリン間のテレタイプ回線が雷電のために55分

間杜絶した。これはフィンランド沿岸をおそった雷雨のために、発電所に落雷があり、停電したために生じたものであった。

9. マララ、台風にも襲われる

6月30日、台風ウィニーがルソン島に上陸、強風が荒れ狂い、倒木、家屋倒壊等の大きな被害を出した。これは過去82年間、最悪の台風といわれ、死者は40名に達した。最大風速は中心附近で64ノットであったと報じられている。

10. ソビエト中央アジア地方に洪水

6月30日のタス通信は異常な豪雨におそはれた、ソビエト、中央アジア地方に洪水がおこり、森林、農業に被害をだしたと報じた。

11. エトナ山と焼岳、東西で噴煙をあげる

東の火山国日本では、焼岳が6月23日に、西の火山国イタリアでは7月4日にエトナ山がそれぞれ噴火。焼岳の噴火は6ヶ月ぶり。

12. 南阿では雪

7月5日、南アフリカ・ネータール地方に雪が降った。この地方は7月は冬の陽ざしに恵まれた地方で、雪はめずらしく、子供にとっては初めてみる雪だった。深い所では13cmの積雪があったとヨハネスブルグから報じている。

13. メキシコシティに地震

7月6日、メキシコシティに午前2時18分、地震があった。電信線・電灯線が各所で被壊され、ビルの一部が壁にき裂を生じた由。この地震は1957年以來のものでは一番大きく、メキシコシティから35マイル附近に震央があったと報じている。

14. マニラでも地震

7月9日、マニラに午後1時55分かかりの地震があった。震央はリンガエン湾、マニラ北東方120マイルと推定されている。

15. 新潟、大雨の禍

7月6日からふり続いた大雨は、新潟・長野地方に洪水をひきおこし、10日にいたるまでふり続いた。死者5名、行方不明6名をだし、家屋の浸水は数千戸におよんでいる。